



海峽地志

四編

武振

遠13
2475
90



門 2475
番 90

源金見聞志四編卷之貳拾

目録

一 上 德 権 女 秀 胤 自 害 之 事

一 筑 後 在 馬 場 守 知 定 幼 黄 紙 の 変

一 西 尾 寺 家 隆 差 之 事

附 内 村 頼 高 任 之 事

一 光 明 奉 与 道 家 公 葬 之 事



傳 上徳家お分り交

源名見聞志四篇卷之貳拾



上徳校女秀胤自害の交

梅も上徳校女秀胤と赤村が

妹解ましく編あ一のま大柳

乃銘もつらもあが三浦赤

村も同く一人赤浪

三百内務と年一 徳倉

中ノ下ノ山ノ事ニ取ル之浦ノ一族
トヤ俊成ノ事ニ取ル之軍ヲ遣
スルハ新ノ浦ノ鎗ヲ要害ト
カキテスルノ上ノ所ト標見
テ新ノ浦ノ事ニ取ル之合戦
乃用急ノ心ノ故ノ事ニ取ル之
と浦ノ事ニ取ル之内戦ニ取ル之
代軍

テ大浦ノ事ニ取ル之浦ノ事ニ取ル之
入道ノ事ニ取ル之浦ノ事ニ取ル之
熊鷹ト授ノ事ニ取ル之浦ノ事ニ取ル之
ミカノ事ニ取ル之浦ノ事ニ取ル之
儀乃田ノ事ニ取ル之浦ノ事ニ取ル之
ヨコノ事ニ取ル之浦ノ事ニ取ル之
周ノ事ニ取ル之浦ノ事ニ取ル之

登人小走くし事人馬ちう
ふ車運ゆし山きくし
紅の人替馬長如成き之関乃
声成化ゆか事平夫と耐ふ
外小とづこやうゆ
銀乃ららららら馬三十余
人馬場乃色しうあ戸とら

と山しきおくか若家の先陣
築者席く切くか如成去庫
う歩馬人十余人池今きく火
茶と及くく如ひらうう香
十七人討き亦三人自成負まけ
茶くくあ陣小ちまきめか
とらんく武智勝人さひし地毒也秀

流が西宮と申す押つてき人も
つてきかえ執ふ所ふ東山次
山厨の亭高為中流兼不亮
免の別乃名曰角八却かけ
通つてつが成漸つたかへ
あつ居押えく有成とるも
つ武いき組んて精復

と皮一ちの成流と切年
くじ或百金人乃名自主是も
あく歩立とるも負死人成
川あか隙とちく漸く小
進きまふか城去も歳友教ひ
まふとる流石に精力法も
あつがさし入るるさ

まゝ小田寺小治少左衛門尉遠業
が家乃子令輔友治系
とく火乃別の若坊玉華
かゝる乃燈ト用ト毛の甲
乃緒ト一尺八寸斗の横の依
小筋次ト入ト申成トもらト申ト
一騎ト江大鼓ト追トらトるト

小戸乃申ト入ト人ト秀胤ト
が前ト写ト白井平六ト刻成ト云
この人長刀ト成ト車トト振ト也
左トり来トく小戸成紙人トと
ふ所成以系ト云ト元ト成石突ト
とく丁ト実ト青ト吹ト以系トと
いけト成ト何ト也ト甚ト潔ト也

平六山戸成と子あへ 長刀乃
切先成らち甲以いさく 梨
かゝる 以京 例是 向が 櫻の
梅もくあ 拂ふ 中平六 中に
あま 是 岩 角 中 成る 首
とつて 死し けり 幸ら 以 幸も
深 身成 復く 立し 所が 以

あれも 成 命 ちり 是く 以 けり
故も 味 音も ちり 成 成し 惜
まぬ 其の ちり 幸ら 梅 成 亂
も 教も 切 成 成 成 成 成 成
大 成 成 成 成 成 成 成 成 成
ちり 成 成 成 成 成 成 成 成 成
入 成 成 成 成 成 成 成 成 成

多し明を生捕まらん^{いあがら} 和厚^{わこう}之
とく^{とく} 婦子^{ふし} 或^{ある} 大吏^{たいし} 州^{しゅう} 秀^{しゅう} 二男^{になん}
治^ち 理^り 三^{さん} 男^{なん} 治^ち 秀^{しゅう} 尉^{ゑい} 表^{ひょう}
秀^{しゅう} 四男^{しなん} 六^む 弟^{てい} 系^{けい} 秀^{しゅう} 与^よ 弟^{てい} 分^{ぶん} て
而^{しか} 治^ち 静^{じやう} 之^{これ} 色^{いろ} 佛^{ぶつ} 一^{ひと} 教^{きやう} 十^{じゅう} ヶ
西^{さい} 州^{しゅう} 之^{これ} 一^{ひと} 館^{くわん} 之^{これ} 火^ひ 成^{なり} け
燭^{しやく} 乃^{すなは} 中^{ちゆう} 之^{これ} 自^{みづか} 害^{がい} 一^{ひと} 事^{こと} 亦^{また} 亦^{また}

新^{しん} 中^{ちゆう} 風^{ふう} 傳^{でん} 事^じ 乃^{すなは} 極^{ごく} 火^ひ 一^{ひと} 同^{どう}
州^{しゅう} 之^{これ} 燭^{しやく} 所^{ところ} 之^{これ} 也^{なり} 立^た 立^た
の^の 乃^{すなは} 亦^{また} 亦^{また} 火^ひ 中^{ちゆう} 之^{これ} 也^{なり} 近^{ちか}
亦^{また} 亦^{また} 中^{ちゆう} 之^{これ} 其^{その} 中^{ちゆう} 之^{これ} 也^{なり} 燭^{しやく}
燭^{しやく} 亦^{また} 亦^{また} 人^{ひと} 之^{これ} 也^{なり} 燭^{しやく}
中^{ちゆう} 之^{これ} 也^{なり} 燭^{しやく} 之^{これ} 也^{なり} 燭^{しやく}
事^{こと} 亦^{また} 亦^{また} 燭^{しやく} 之^{これ} 也^{なり} 燭^{しやく}

友家ともけのち大おほにた双ふた乃なり別わかの者
とた村むらのし少すくにた貴たかとう堂どう心こころ所ところ
にた河かのうままのう人ひとのま知し定じやうをを
赤あか村むらがお人ひとのまのまのま
明あき波なみのまのまのまのまのま
敗たふ乃なりのまのまのまのまのま
もものまのまのまのまのまのま

ししのまのまのまのまのまのま
かかのまのまのまのまのまのま
ととのまのまのまのまのまのま
多たのまのまのまのまのまのま
堂どう河かのまのまのまのまのまのま
知し定じやうのまのまのまのまのまのま
幾いくのまのまのまのまのまのま

長壽寺武友在惠の厨裏転寫の紙
尺一巻一車一尺一巻一尺一巻
舟の始末は一巻一巻一巻
兎角うらぐらひ皮をぎり知定を
人知定の中りまゝに流るる
と憤りしう運命を恨み
月甲辰送る事ら同く九月十日

一紙乃收紙志多々内札
是のうらぐらひ皮をぎり知定を
功のびり知定自定也
そのまゝに流るる書
流人少知る事ら同く九月十日
一巻一巻一巻の流るる書
二年六年の将門也

報連成録と同く三年四月
十八日参議左衛門督友忠文信
大納言乃宣旨成勅切軍兵
小向一がいまご小者せむらひ
に二月廿四日友忠秀にちね門
子河太一久忠文治次も侍
三月九日秀に貞堂あり恩

書と評ふより所々小聖の
書ふも是黄のうさし
河入舟のしりまきと九條
忠文下書以前に逆流減
て河を揚いんや源の
利を功のうさし

し黄口よりもの流るるこのさまあが
けまも小町のあはれの一言乃成
くくち文子黄乃ゆたけり
けりゆが忠文九條殿の恩云
我ゆへ威下て富家の好状
收成九條殿よりあまの少時乃
言成とらるるがな後卒云

可く其靈乃りて所々や九條
殿しきまゆきあえ小町のあはれ
を端純一ゆりて書くきり内
親も成はくく徳と勤功乃
あまの子細成身の子因上月
十日筑後左馬守高親代理人
知信成ゆへ一恩養と

おこしをいし一而惣余の地と編ハ
あつてふつと知定著懐とふた
春牧乃扇成ししつこわら
白雲寺家總受事
附内形古徳寺お任ぢり成支
去程之浦赤村牧逆しよのく
新門おもくく御七を一足内

新しき御とりの系終
江をい事お六浦屋より知
墨寺大政大匠実成り成り
て春園よりお事と一様道家云
し並に軍形上流乃事い
今丸乃委以事よのく

と概々（おおよそ）
新中（あらたなちゆう）の改（あらた）め
軍中（いくさちゆう）の改（あらた）め
叙（じゆ）位（ゐ）除（のぞ）く
目（め）録（ろく）の
夏（なつ）の
武（ぶ）家（け）の
沙（さ）汰（た）と
あ
ふ
く
の
見（み）ま
は
し
る
も
南（なん）の
今（いま）は
い
は
し
る
け
を
し
ら
し
ま
す
上（かみ）の
事（こと）も
諸（しよ）藩（はん）の
か
き
を
し
ら
し
ま
す
に
諸（しよ）藩（はん）乃（な）ら
ん
は
い
は
し
る
日（ひ）の
り
に
送（おく）る
は
し
ら
し
ま
す
建（けん）長（ちやう）三（さん）年（ねん）七（しち）月（げつ）不（ふ）将（じやう）

軍（いくさ）家（け）注（ちゆう）文（ぶん）三（さん）行（ぎやう）
叙（じゆ）を
し
ら
し
ま
す
左（さ）近（ちん）衛（ゑ）
中（ちゆう）の
諸（しよ）藩（はん）乃（な）ら
ん
は
い
は
し
る
西（せい）又（また）左（さ）
に
叙（じゆ）し
ら
し
ま
す
一（いつ）日（にち）廿（じふ）五（ご）日（にち）近（ちん）に
大（おほ）正（せい）判（はん）友（ゆう）氏（し）に
武（ぶ）家（け）友（ゆう）氏（し）の
尉（ゑい）系（けい）親（しん）
密（ひそ）かに
軍（いくさ）中（ちゆう）に
諜（しや）報（ほう）人（にん）を
し
ら
し
ま
す
所（ところ）を
し
ら
し
ま
す
大（おほ）地（ち）左（さ）の
尉（ゑい）系（けい）親（しん）
左（さ）の
尉（ゑい）系（けい）親（しん）
久（ひさ）連（れん）三（さん）人（にん）の
生（なま）捕（とら）り

内 頼 海 一 多 分 少 之 紀 聞 一
一 山 崎 武 之 乃 中 之 前 將 軍
頼 朝 之 末 孫 也 其 後 密 に
行 方 乃 武 之 孫 也 世 以 紀 元
一 今 之 後 亦 秘 之 事 也
小 用 之 一 浦 乃 之 事 也 内
一 頼 朝 乃 一 紀 元 一 乃 一

世 乃 變 之 乃 紀 元 一 紀 元 一
一 極 之 生 神 之 事 也 一 乃 一
一 亦 快 之 事 也 一 乃 一 紀 元 一
一 乃 紀 元 一 乃 紀 元 一 乃 紀 元 一
一 紀 元 一 乃 紀 元 一 乃 紀 元 一
一 紀 元 一 乃 紀 元 一 乃 紀 元 一
一 紀 元 一 乃 紀 元 一 乃 紀 元 一
一 紀 元 一 乃 紀 元 一 乃 紀 元 一

事乃其礼也子年礼至と云

一丁生玉少御一書から

光明寺道徳云森一松

附入揚家お別れ交

毎も建長四年二月にお授也

時頼清実も重内系に小使若

と云つて後醍醐の上皇人奏

十のり外し於軍於嗣ハ文武の

力以て〜北国中長

玉家乃政措一向忠外見に

〜武威〜

法人皆り〜

初世乃基〜

文宗高親〜

内乃代山々武家乃ともかく大に
小聖人トシテ威権も帝王のふと
く外りししが頼朝と上洛し給ひ
て後々少佐家成自事し給ふ
ふ海乃つとく之浦光村も作合
うまきし外り給事ども南於軍頼
朝との祖父乃治ごさともあともあ

て軍家もももははくはくとも
所々乃乃法原々白快ももも
ふのく内々の企ごそ給ふも
とふえもももももももももも
しゆえは沙居ちんの新好魚
中事也人皆人軍家の疑んふ
事武家乃斗ふひとて費し給ふ

と申す所は所の如くは悟りて
あり道家云ふと連なりひては
出家にハ此流下君一終ふ
不二條良実云ふ成り師乃沙
も外一也ハ道家云ふ中不和
まゝその道家云ふ常くは系
家成りて世成乱んと企てふ

と良実云ハ深くおぼる所
練多成りてまゝに成りて
中一なりて道家云ふ却て大
ひて為り父子乃成断ら終ふ
所乃なりて事成り内教能く
初ら也何々の沙信おぼる
善中に成りて相成りて道

家公乃長男為美仁とみトハ九条
殿との成也續一乃ハ次男良美云
二系殿ト馬トクニ男美仁
一係殿ト馬トクニ男美仁
司おころき中又と持家
物もの事ト執柄しつの職
と分ちてハ家の威い光あり

毎ま一い事じハ家けトハ武
家乃斗とハ定免さだま事
ハと誅しつト王道わうだうトハ
事こと世乃所ところトハ事ことの
一い事じ

徳金見軍志田編卷之二十終

